



# 2026年5月期 第2四半期決算説明資料 (2025年6月1日～2025年11月30日)

2026年1月9日

**小津産業株式会社**

証券コード7487

上期はAI関連需要、医療・介護用ウェットが堅調に推移  **通期業績見込み 上方修正**

**売上高:**            **5,473百万円**    **対前期比 + 2.9%**

国内外のAI関連需要および医療・介護向けウェット製品等の需要が堅調  
前年同期比微増

**売上総利益:**    **1,849百万円**    **対前期比 + 1.1%**

国内外のAI関連および半導体需要が堅調等の理由で増益

**営業利益:**            **383百万円**    **対前期比 Δ4.4%**

人材確保や新規事業開発等へ戦略的に投資した結果減益

**経常利益:**            **496百万円**    **対前期比 + 8.0%**

受取配当金、為替差益の増加等により増益

親会社株主に帰属する

**中間純利益:**    **355百万円**    **対前期比 + 17.2%**

経常利益の増益により増益



1.	2026年5月期 第2四半期決算概要	3
2.	2026年5月期 業績見通し	7
3.	各事業分野の主要動向	11
4.	参考資料	22



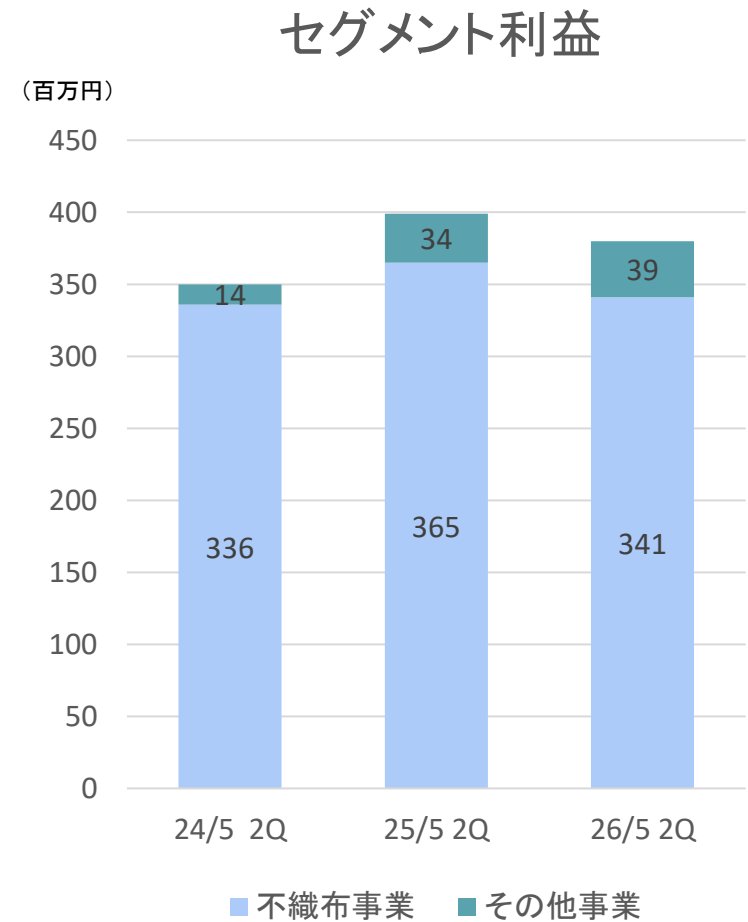
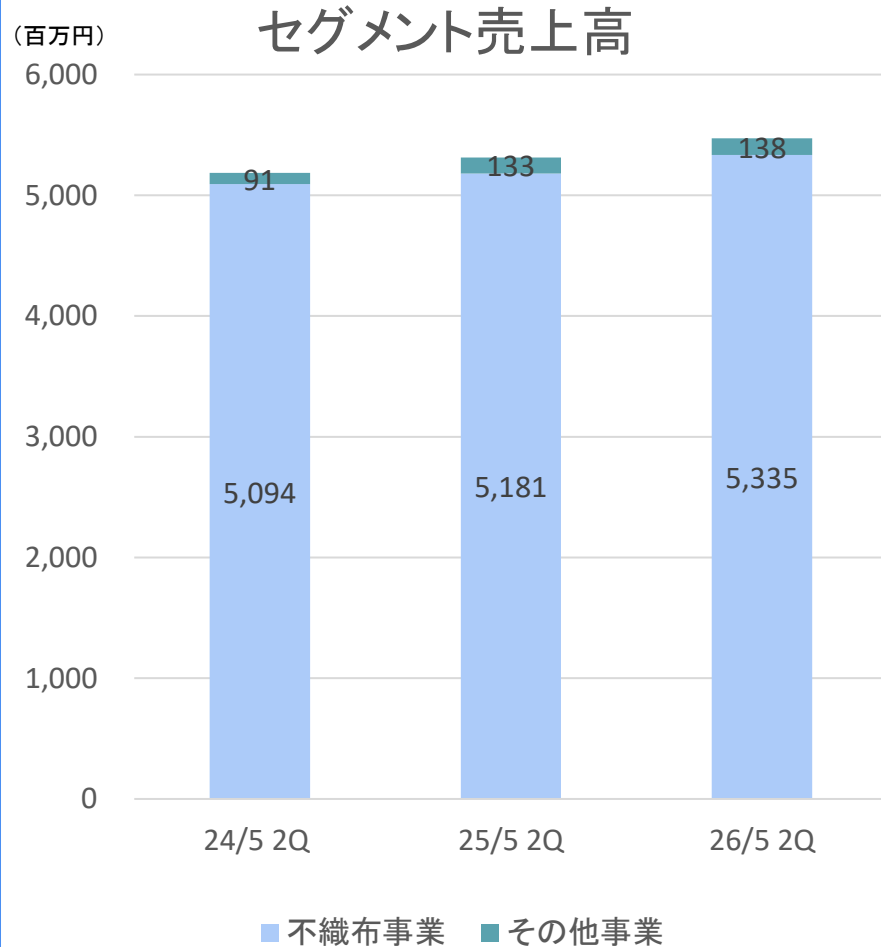
1. 2026年5月期 第2四半期決算概要
2. 2026年5月期 業績見通し
3. 各事業分野の主要動向
4. 参考資料

## 業績のポイント

- 前年同期比、売上高は微増、利益面は増加
- クリーン分野において、国内外のAI関連需要が堅調に推移  
ウェルネスケア分野は、ウェット製品やコスメ製品の需要が堅調に推移
- 人材確保や新規事業開発に戦略的に投資した結果、営業利益は減益したものの、受取配当金、為替差益の増加等により経常利益等は増益

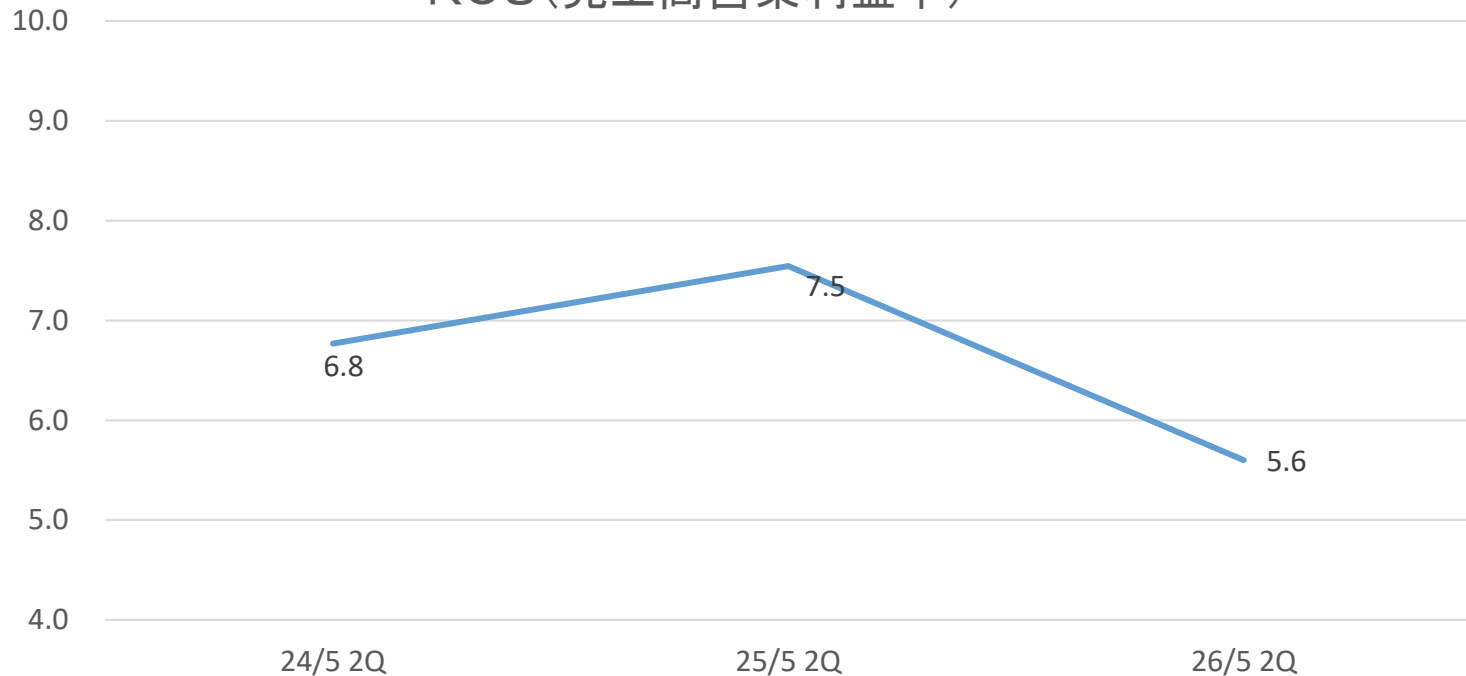
(百万円)	25／5期		26／5期		前年同期比
	2Q実績	構成比	2Q実績	構成比	増減額
売上高	5,315	100.0%	5,473	100.0%	157
売上総利益	1,827	34.4%	1,849	33.7%	21
販売費及び一般管理費	1,426	26.8%	1,466	26.7%	39
営業利益	401	7.5%	383	7.0%	△17
経常利益	459	8.6%	496	9.0%	37
親会社株主に帰属する 中間純利益	303	5.7%	355	6.5%	52

## 不織布事業＋その他事業の業績推移



## 経営指標の推移

ROS(売上高営業利益率)



- 除染布(五大力)の大きな採用実績がなく、人件費等販管費の増加を主因に第2QのROS(売上高営業利益率)は前年同期比減少
- 長期ビジョンで掲げる目標達成に向け、人材確保、市場調査・研究開発費等に戦略的に投資し、土台づくりに注力



1. 2026年5月期 第2四半期決算概要
2. 2026年5月期 業績見通し
3. 各事業分野の主要動向
4. 参考資料





業績予想の上方修正

直近の業績動向を踏まえ、通期業績予想を上方修正

(百万円)	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (2025年7月10日公表)	10,300	330	460	290	34.50
今回修正予想(B) (2026年1月9日公表)	10,500	410	570	370	43.99
増減額(B-A)	200	80	110	80	—
増減率(%)	1.9	24.2	23.9	27.6	—
(参考)前期実績 (2025年5月期)	10,220	430	559	408	48.64

修正の理由

- クリーン分野(電子・食品・製薬等)において、国内外ともにAI関連需要が堅調に推移
- ウェルネスケア分野(医療・介護・コスメ等)において、ウェット製品やコスメティック製品の需要が堅調に推移



業績予想概略

売上高:10,500百万円 前期比 280百万円

- クリーン分野およびウェルネスケア分野が堅調推移  
除染布(五大力)の納入数量減をカバーし、売上高は前期比微増を見込む

営業利益:410百万円 前期比 △20百万円

- 長期ビジョンで掲げる目標達成に向け、人材確保、市場調査・研究開発費へ戦略的に投資を継続  
販管費の増加により減益を見込む

販売費及び一般管理費:前期比 +189百万円

(百万円)	25／5期		26／5期(2026年1月9日公表値)		前期比 増減額
	実績	構成比	予想	構成比	
売上高	10,220	100.0%	10,500	100.0%	280
営業利益	430	4.2%	410	4.4%	△20
経常利益	559	5.5%	570	5.9%	11
親会社株主に帰属する 当期純利益	408	4.0%	370	3.9%	△38

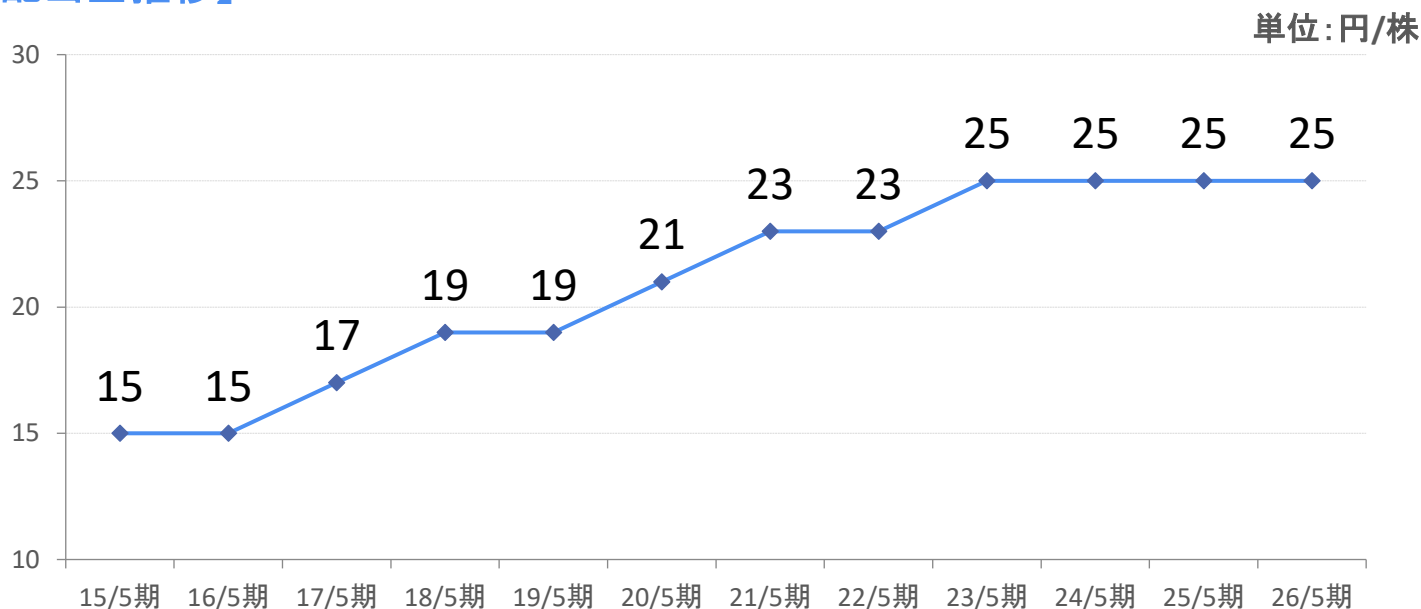
## 株主還元方針

株主さまに対して、長期的に安定した利益還元を行うことを基本方針としつつ、合わせて当社グループの企業体質の強化と将来の事業展開に備えた内部留保の確保を総合的に勘案し、株主還元を行います。

加えて、株主さまへの利益還元を充実するため、業績に多大な影響を与える事象の発生がないかぎり減配は行わず、増配を目指して業績向上に努めます。

現時点においては、2025年5月期と同様の、一株あたり25円の配当を予定しております。

### 【配当金推移】





1. 2026年5月期 第2四半期決算概要
2. 2026年5月期 業績見通し
3. **各事業分野の主要動向**
4. 参考資料

# 第一次中期経営計画2027（2024年7月発表）



## 第一次中期経営計画2027基本方針

- 長期ビジョン「OZU Innovation2034」の実現のための土台づくり  
“自ら製品を企画・開発・生産する機能を備えた商社”への発展を目指す
- 発展を支える地道な活動の実施  
お客さまニーズ等の情報収集活動の展開  
外部環境変化に的確・迅速に対応

## 計量計画

- 2027年5月期（最終年度）  
売上高：10,500百万円 営業利益：300百万円

## 進捗状況

- 事業戦略室を核とした新用途・新機能の開発、新事業の探索  
⇒約70案件を検討、複数案件が進行中 早期の具現化を目指し一層強力に推進  
⇒今後の更なる事業成長の推進のため、戦略の鋭角化を推進
- 長期ビジョン実現のための土台づくり  
⇒人事制度の改定を行い、組織の新陳代謝と活性化の維持、評価制度および報酬制度の透明化向上に努め、長期ビジョン達成に向けた人材育成に引き続き注力  
⇒小津上海を軸とした購買機能の体制づくりなどの海外拠点の見直し  
⇒生産機能の拡充として、国内加工場の最適化検討および共同購買機能導入検討

不織布事業(分野)	事業の概況
クリーン分野 (電子・食品・製薬等)	半導体、自動車、製薬、食品工場等の製造現場で使用される不織布製品の企画・販売 日本を始め、アジアを中心に先端技術産業を側面からサポート
ウェルネスケア分野 (医療・介護・コスメティック等)	病院・介護施設向け感染対策製品や防災製品および国内外の化粧品メーカーの お客様ブランドの商品を企画・製造販売
エコプロダクツ分野 (鉄鋼・電力・建設等)	インフラを支える製造環境の改善製品や除染関連製品を販売 「エコ」をキーワードに幅広い環境対応製品の企画・販売を推進
コンシューマー分野 (一般消費者向け)	マスク・ウェット製品等の一般消費者向け製品の企画・販売 YoutubeなどのSNSを活用し、商品のPRや認知度アップに努める
小津(上海)貿易有限公司	中国における販売・購買の拠点 中国でのクリーン分野製品の販売や原材料購買を推進
ディプロ	小津グループの生産拠点 化粧品や医薬部外品等の高付加価値製品を生産
日本プラントシーダー	農業の生産性を高める「シーダー農法」製品を展開 省力化、生産性向上の手助けとなる製品を開発・展開

その他事業	事業の概要
除菌関連事業 (エンビロテックジャパン)	食品添加物として過酢酸製剤を販売(米国FDA認証、2016年厚労省認可) フードロス削減に繋がる過酢酸製剤の販売を推進
不動産賃貸業	不動産賃貸事業を営む

## 事業の概要

半導体・自動車・食品・航空・製薬等、製造現場の清拭ワイパーとして不織布を展開  
様々な製造現場に、「より清潔・より快適」を提供

## 売上構成比率

約35% ※連結 2025年5月期業績ベース

### 第2四半期までの実績

- ・国内外ともにAI関連は堅調に推移
- ・半導体の需要も底堅く推移

売上高は前年同期比増加、利益面は横ばい

### 今後の取り組み

- ・需要旺盛の継続が予想されるAIやデータセンター関連への拡販
- ・エンビロテックジャパンと連携し、食品分野への新規販売先を開拓
- ・中国から東南アジアへの生産シフトに伴い、東南アジア市場へ注力

## 【取扱製品例】

「ワイパー(ベンコット®)」



「航空用ワイパー」



「厚手紙ワイパー」



「熱中症対策 汗拭きシート」



※「ベンコット®」は旭化成の登録商標です。



# ウェルネスケア分野（医療・介護・コスメティック等）

## 事業の概要

不織布と加工の技術をより、発展させ、生き活きとした日常生活に貢献  
高品質な医療・介護製品、スキンケア商材を開発し、「より清潔・より快適」を提供

## 売上構成比率

約25% ※連結 2025年5月期業績ベース

### 第2四半期までの実績

- ・ ウェット製品の需要は堅調に推移
- ・ 反面、コスメ製品需要が前年比伸び悩む

売上高は前年同期比増加、利益面は横ばい

### 今後の取り組み

- ・ 在宅介護製品、防災備蓄製品の開発・拡販
- ・ メディカルとコスメの融合を図り、製品開発を継続
- ・ ウェルネスケア（＝心身健康）に寄与する製品の開発を目指す

### 【取扱製品例】

「ワイパー」



「流せるおしりふき」



「フェイスマスク」



「ウェットシート」





# エコプロダクツ分野(鉄鋼・電力・建設等)

## 事業の概要

インフラ支える製造環境の改善や除染関連事業で社会に貢献  
生活基盤を支える領域に、機能性を持つ製品を展開し、「より清潔・より快適」を提供

## 売上構成比率

約5% ※連結 2025年5月期業績ベース

### 第2四半期までの実績

- ・工場向け消耗資材の販売は堅調に推移
- ・反面、除染布(五大力)の大きな採用実績なし

売上高、利益面ともに前年同期比減少

### 今後の取り組み

- ・環境対策品オイルテイクアを軸とした環境にやさしい製品を幅広い分野に拡販
- ・除染布事業の安定化を目指し、新規採用、リプレイス需要の安定的な取込みを目指す
- ・「エコ」をキーワードとした新製品開発

## 【取扱製品例】

「油吸着材(オイルテイクア)」



「汗拭きシート(ノアクールシートC1000)」



「除染布(五大力)」



## 事業の概要

新しい機能を開発・強化、人に優しい製品で生活に貢献  
機能性を持たせた不織布製品を通じて、日常生活に「より清潔・より快適」を提供

## 売上構成比率

約3% ※連結 2025年5月期業績ベース

### 第2四半期までの実績

- ・ マスク販売の安定した需要が続き、ドラッグストア等向け除菌ウェット製品が堅調に推移

売上高は前年同期比増加、利益面も改善

### 今後の取り組み

- ・ 株式会社ディプロ製のウェット製品、マスク製品等の拡販
- ・ 現在の商品カテゴリーにとらわれない不織布コンシューマー製品開発継続
- ・ 新たな販売網であるECサイトの立上げと本格稼働

## 【取扱製品例】

「マスク(マスメイク)」



「除菌ウェットワイパー(ケアウィル®)」



「メガネふき」



## 事業の概要

中国における販売・生産・購買の拠点

中国でのクリーン分野製品の販売や原材料購買を通じ、「より清潔・より快適」を提供

## 売上構成比率

約3% ※連結 2025年5月期業績予想ベース

### 第2四半期までの実績

- ・半導体関連需要が堅調に推移
- ・光学向けの販売も順調

売上高、利益面ともに前年同期比増加

### 今後の取り組み

- ・半導体関連企業、光学関連企業を中心に営業活動継続
- ・購買拠点として、中国不織布メーカーの情報収集に引き続き注力
- ・グループ会社（小津産業、ディプロ）向けの製品購入窓口機能の強化

## 事業の概要

小津グループの製造拠点

化粧品や医薬部外品等の高付加価値製品を生産し、「より清潔・より快適」を提供

## 売上構成比率

約15% ※連結 2025年5月期業績ベース

## 第2四半期までの実績

- ・ OEM品の販売が好調に推移
- ・ 加えて、原価低減と経費減少に尽力

売上高は前年同期比横ばい、利益面は増加

## 今後の取り組み

- ・ 製品ラインナップ拡充と、小津産業との連携による販売強化
- ・ 企画・開発力の強化、製造機能の活用・拡充による高性能製品開発
- ・ 生産性および品質の向上と原価低減の実現

## 【工場全景】



## 【当社設備事例】



## 【取扱製品例】

「高濃度アルコール除菌シート」



## 事業の概要

農業の生産性を高める「シーダー農法」製品を展開  
省力化、生産性向上の手助けとなる製品を開発・展開し「より清潔・より快適」を提供

## 売上構成比率

約10% ※連結 2025年5月期業績ベース

## 第2四半期までの実績

- ・ 機械販売が堅調に推移
- ・ 反面、国内外での資材販売が苦戦

売上高は前年同期比横ばい、利益面は減少

## 今後の取り組み

- ・ きめ細かい対応、播種機販売を起点とした主力製品の拡販
- ・ シーダー農法対象作物、新規マシン開発の加速化
- ・ 新規事業部を設置、小津産業と連携を強化し、新規事業の探索に注力

## 【取扱製品例等】

「シーダーマシン(あけマルくん®)」



「シーダーテープ」



「東北営業所」





## 事業の概要

食品添加物の過酢酸製剤を販売（米国FDA認証、2016年厚労省認可）  
フードロス削減に繋がる過酢酸製剤の拡販により、「より清潔・より快適」を提供

## 売上構成比率

約2% ※連結 2025年5月期業績予想ベース

## 第2四半期までの実績

- ・ 過酢酸製剤の効用訴求活動の継続実施により新規採用先増加

売上高、利益面ともに前年同期比増加

## 今後の取り組み

- ・ 食品殺菌、畜産分野の防疫対策用途としての過酢酸製剤の拡販
- ・ 更なる業容拡大のため、データ・ノウハウ・現場力の蓄積
- ・ 代理店、セミナー・Web会議の活用、効率的・効果的な営業活動の一層強化

## 【取扱製品例等】



※過酢酸製剤使用例



※泡除菌剤の使用例



「過酢酸製剤 (パーサン®)」



1. 2026年5月期 第2四半期決算概要
2. 2026年5月期 業績見通し
3. 各事業分野の主要動向
4. 参考資料



# 2026年5月期 第2四半期連結貸借対照表

(百万円)	25/5期 5月末	26/5期 11月末	増減額
流動資産	13,986	13,953	△32
固定資産	12,427	12,754	326
総資産	26,414	26,707	293
流動負債	3,878	3,689	△188
固定負債	3,316	3,421	105
負債合計	7,194	7,111	△83
純資産	19,219	19,596	377
自己資本 比率	72.4%	73.0%	0.6%

## 主な増減要因

■ 資産	
受取手形及び売掛金	307
投資有価証券	293
現金及び預金	△468
■ 負債	
繰延税金負債	116
支払手形及び買掛金	△134
■ 純資産	
その他有価証券評価差額金	190
利益剰余金	145





(百万円)	25/5期 2Q	26/5期 2Q	増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	386	△201	△587
投資活動による キャッシュ・フロー	△111	△97	14
財務活動による キャッシュ・フロー	△209	△209	0
現金及び現金同 等物に係る換算 差額	△13	39	52
現金及び現金同 等物の増減額	52	△468	△520
現金及び現金同 等物の期首残高	7,438	8,362	923
現金及び現金同 等物の四半期末 残高	7,490	7,893	403

キャッシュ・フローの状況

- 営業キャッシュ・フロー  
(2026年5月期第2Qの獲得)  
税金等調整前中間純利益 前年対比+41  
売上債権の増減額 △365  
その他負債の増減額 △138  
仕入債務の増減額 △134  
※本業の収益力は堅調。政策的な仕入数量増加の影響あり。
- 投資キャッシュ・フロー  
(2026年5月期第2Qの支出)  
無形固定資産の取得による支出 △50
- 財務キャッシュ・フロー  
(2026年5月期第2Qの支出)  
配当金の支払額 △209

- 1653年(承応2年)創業の和紙問屋を起源とする「紙と不織布」の製造商社
- 現在では、クリーン分野、ウェルネスケア分野、エコプロダクツ分野、コンシューマー分野などを展開
- 機能性不織布製品の企画開発から製造・販売までをメインとした幅広いサービスを提供



# 小津産業会社概要



会社名	小津産業株式会社
本社所在地	東京都中央区日本橋本町3－6－2
創業	1653年(承応2年)
設立	1939年(昭和14年)12月6日
資本金	13億2,221万円
証券コード	東証スタンダード 市場 7487
事業内容	不織布・紙製品等の販売・加工・ウェット製品製造、輸出入および過酢酸製剤販売
従業員数	連結:285名 単体:97名(2025年5月31日現在)

役員等	代表取締役 社長執行役員	柴崎 治
	取締役 常務執行役員	村尾 茂
	取締役 常務執行役員	三崎 剛志
	取締役 上席執行役員	立野 智之
	社外取締役	山下 俊史
	社外取締役	阿部 光伸
	社外取締役	青木 常子
	常勤監査役	近藤 聡
	社外監査役	深山 徹
	社外監査役	山本 千鶴子
関係会社	上席執行役員	山田 拓
	執行役員	中野 伸昭
	連結子会社	オヅテクノ(株)
		日本プラントシーダー(株)
		(株)ディプロ
持分法適用関係会社		小津(上海)貿易有限公司
		エンビロテックジャパン(株)
		(株)旭小津
		アズフィット(株)



## 本資料に関するお問い合わせ

小津産業株式会社 経営企画室

Email : [soumu@ozu.co.jp](mailto:soumu@ozu.co.jp)

<https://www.ozu.co.jp/>

## 本資料の取り扱いについて

- ・本書には、当社グループに関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- ・別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- ・当社グループは、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- ・当社グループ以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。